

コーチ



本多 和宏さん
Kazuhiro Honda

新体操でつながった心と心 そのつながりをこれからも広げていきたい

平成14年に東中に赴任し、5年間新体操部の監督を務めました。その間、キューブ新体操とは連携を図りながら、互いに支え高め合っている練習に励んでいました。当時の教え子の多くは県外の高校へ進学する現状があったため、何とか宮城県に残し全国の高校界へ宮城県をアピールできないものかと考えていました。そこで平成19年に、聖和学園高校に男子新体操部を立ち上げ、私自身が初代監督を務め、県内に高校とジュニア層との強いパイプを築くための一歩を踏み出しました。創部当時は、経験者が少ないことや施設などの環境面での条件が揃わず、思い描いたようには進みませんでした。当時からは「どんな環境でも日本一を目指す」と合言葉に、練習を重ねてきました。創部2年目には、念願だったジュニア層との連携も図れ、キューブ新体操教室のOBから2人の生徒が聖和学園に入学生し、主力選手として活躍しました。縦のパイプが繋がったことに喜びを感じながら、日本一に向け練習にもより熱が入りました。そして、創部2年で全国選抜大会初出場の切符を手にし、さらには準優勝という偉業を生徒たちは成し遂げてくれました。あの瞬間は、紛れもなく、宮城県の名を全国に轟かせることができた瞬間であったと確信しています。

そういつた経験を共にしてきた教え子には、エンターテインメントの第一線で活躍している生徒が多くいます。今、男子新体操は世界から注目されている競技です。現在キューブ新体操で頑張っている生徒の中から、いずれは世界に羽ばたく生徒が現れるでしょう。その時に、「新体操人は技術だけではなく心もすばらしい」と感じてもらえるような生徒を育てていきたいと考えています。

現在私は、七ヶ浜町立向洋中学校に勤めています。キューブ新体操の練習には、休日を利用して月に数回顔を出す程度ですが、その都度子どもたちのレベルが向上していることにうれしさを感じるとともに、後任のコーチ陣の頑張りが現東中体操部顧問の菅原健雄先生には感謝の気持ちでいっぱい입니다。今は、離れた場所からの関わりですが、男子新体操の未来が切り開かれていくさまを、教え子や指導者との出会いを通して、直に見られる環境にいられることに感謝しています。子どもたちにも、今ある環境へ感謝する心や、たくさんの出会いを大切に、成長していったほしいと願っています。

新体操で得た経験を 子どもたちに伝えていきたい

コーチ



伊藤 芳正さん
Yoshimasa Ito

5年前に福島から宮城に越して来ました。子どもがキューブ新体操教室に入っていて、初めは子どもの送り迎えだけをするつもりでしたが、新体操とともに学生時代を過ごしたので、どうしても新体操の魅力が子どもたちに伝えたくて、コーチになりました。

新体操と出会って、厳しきやつらさや体験してきましたが、技をひとつ覚えて、ほめられるだけで、「次はこの技を」と自分に自信が付き、何事に対しても挑戦できるようになりました。私は新体操を通して礼儀を学びました。子どもたちとのふれあいを通して、人に対する感謝の気持ちを「声に出して伝える」ことの大切さを伝えていきたいと思っています。

新体操は魅力あるスポーツ。自身は引退してしまいましたが、現役に復帰しました。これからも無理のない範囲で新体操にかかわっていききたいと思っています。

指導者との出会いが自分を変えた その思いを少しでも子どもたちに

コーチ



佐藤 史弥さん
Fumiya Sato

新体操を始めたのは小学5年で、東中、聖和学園では本多和宏先生の指導を受けました。聖和学園では新体操経験者が私ともう一人の2人だけでしたが、創部2年目で全国選抜高等学校選手権大会で準優勝。本多先生をはじめ支えてくれた人たちの協力や応援が

あったからだと思っています。本多先生の指導は厳しかったのですが、つらいと思うこともありましたが、これほど本気でぶつかってくださる先生は少ないと思います。今も仙台大で新体操を続けていますが、こうした指導者との出会いがあったから続けてこられたと思います。

男子新体操は競技人口が少ないといわれていますが、入部している子どもたちは増えていきます。今は、私を育ててくれた人たちへの感謝の気持ちを大切に、キューブ新体操教室に通っている子どもたちに、新体操の楽しさを伝えていきたいと思っています。

次の世代へ つなげたい

白石の男子新体操の躍進を語る上で欠かせない、指導者たちの存在。「新体操を広めたい」「新体操を次の世代へつなげたい」という熱い情熱を持った指導者たちがいたからこそ、今の白石の躍進がある。彼ら突き動かす原動力は何なのか？指導者の立場として新体操への想いを聞いた。



野呂 和希さん
Kazuki Noro

新体操は観る人に感動を与える競技 新体操の魅力をたくさんの人に知ってほしい

平成9年、新任で東中に赴任し、ジュニアの育成をしたいと思い、新体操部を創り、キューブ新体操教室にも足を運ぶようになりまし。現在の勤務先である盛岡市立高校に赴任するまでの5年間を白石で過ごしました。平成13年に全日本ジュニアの団体競技に東中が出場し優勝した時のことは、今でも忘れません。

白石から巣立っていった生徒の中には、シルク・ドゥ・ソレイユに入り、海外ツアーで世界を回っている高橋雄太や鈴木大輔、大手プロダクションに所属して活躍している祝陽平など、白石から世界に羽ばたいて、アーティストとして活躍している選手も出始めました。高橋は東中が全日本ジュニアで優勝した時のキャプ

テン。鈴木と祝は、私の後任で東中に赴任した本多和宏先生の教え子です。こうしたプロの道が用意され始めたのはごく最近です。平成20年には、「国際性がない」「競技人口が少ない」ことを理由に団体の種目から外されるなど厳しい現実もあります。それでも何とかしてこのスポーツをたくさんの人に知ってもらいたいとさまざまな人たちの協力を得ながら、普及活動を行っているところだ。

私の出身高校の青森山田では、新体操に演出を加え、地域の人たちに新体操の魅力を楽しみながら知ってもらおう取り組みなども行っています。こうした活動は、選手の意識の向上や地域の人たちに新体操を知ってもらおうためにも大事だと思っ

ています。今の夢は、団体の復活！そのためにもジュニアの育成に力を入れ、新体操の魅力が少しでも多くの人に伝えていきたいと考えています。今年の1月には、男子新体操の競技人口を増やすことやしっかりとした基礎能力を備えた選手を育成するため、小学生以下を対象にしたキッズ選手権が開催されるなど新しい動きも出てきています。

観た人に感動を与え、言葉を交わさなくても何かを感じ取ってもらえるなど、新体操は人間味あふれる、子どもたちに夢を届けられるスポーツです。白石のお母さんと思っ